



## 1 9年間を通した子どもたちの学びと育ち

### (1) 「穂波東校小中一貫教育だより」：新たなチャレンジ

子どもたちの9年間の学びと育ちをしっかりと捉えることは、小中一貫教育の肝と言っても過言ではありません。そこで、「穂波東校小中一貫教育だより」では、小学部・中学部の先生方が、互いに児童・生徒の学びと育ちをこれまで以上に深く捉えていただくことをねらいとして、新たな情報発信にチャレンジします。

### (2) 小学部1年生「ひらがな指導」

今回は、小学部から中学部への情報発信です。

さて、中学部の先生方は「子どもたちは最初からひらがなの読み・書きができる。」と聞いていませんか。しかし、それは違うんですよ。そのことを伝えられるレポートを小学部の藺田校長からいただきましたので紹介します。

## 新1年生のひらがな指導

小学部校長 藺田美穂

入学後、国語科の学習は、ひらがなの指導からスタートします(1年生は週9時間)。

とはいえ、まずは、「学習に向かう準備2点」を指導します。この準備2点とは

#### ① 正しい姿勢を取りましょう！ 合言葉は「グー・ペタ・ピン」

お腹と背中の前後にグー1つ分空け、足はペタンと床につけます。背中ピンと伸ばします。

#### ② 正しく鉛筆を持ちましょう。

親指と人差し指で鉛筆を持ち、残りの三本は鉛筆に添えます。

次にひらがな指導です。実は、入学前、既に多くの児童が読むことができ、書くことができる子もいます。それでも、「あ」から順に一文字ずつ、書き順をたしかめながら、止め・はね・はらいに注意して、約2か月かけて指導していきます。ひらがな指導を通して、就学前までの経験の差をできるだけ埋めながら、また、「あ」のつく言葉探しなどで語彙を増やしなが、言葉と体験をつなぎ、入門期の指導を行います。

この入門期のひらがな指導は、指導方法工夫改善(今年は大和先生)を中心に複数体制で行い、児童の実態把握(就学前との引継ぎはいいに行っていますが、1年生の実態はかなり未知数です。)を行いながら、以後の学びへの支援につなげています。

(教科書の内容は、読みを中心に、並行して行います。)



ひらがな指導のようす

今回紹介した「ひらがな指導」は、現在、小学部1年生で取り組まれています。中学部の先生方は、お時間あります時に一度見学に行かれてはどうでしょうか。どの曜日のどの時間帯に行われているかは、小学部の末吉主幹にお尋ね下さい。

5月6日には、各家庭に持ち帰ったタブレット端末が戻ってきます。今回、家庭の通信環境を使い、何かしらのチャレンジをした児童生徒もいると思います。その時の様子について子どもたちから何か話を聞くことができた先生方は、ぜひその情報をご提供下さい。(経営部のメンバーまでお願いします。)